

にしのそらに、まっかなゆう
ひがしずもうとしていました。
とおくのやまはきんいろにかが
やき、かわのみずはしずかにな
がれていました。

とししゅんは、そのうつくしい
けしきをじつとみつめながら、
ひとりでかんがえていました。

「どうしたら、おかねもちにな
れるのだろう……。」

あくたがわりゅうのすけ「とししゅん」より